

「安倍政権の『ジコチュウ』」

2017年07月03日

子どもは「ジコチュウ」である。未分化な成長過程にあり、自分中心に世界を認識しているからである。年を取ると、体力も頭脳も衰え、自分を支えることで精一杯になり、自分中心になっていくことは避けられない。成熟した社会は、彼らの弱さを認め、受け入れ、支えていく。まともな大人がジコチュウであってはならない。

通常国会の閉会を受け、安倍晋三首相が記者会見で、演説をした。演説は「ジコチュウ」の塊であった。まず、言葉の軽さである。美しい言葉を並べたて、自画自賛を謳いあげたが、どの国のことを言っているのかと思ってしまった。

「秘密保護法」「安保関連法」そして、「テロ等準備罪法」を強行採決した。国民の広範な反対の声を聞かず、数で押し切り、強引に成立させた。国民に事実を隠し、政府に異議申し立てをする者を抑え込み、戦争する国に向かって一直線である。日米同盟を金科玉条とし、米軍と一体化した自衛隊の海外派遣を明確に打ち出した。そして、憲法九条を改訂すると言う。憲法を改訂すれば「安保関連法」は、憲法違反であることを自ら証明することになるのではないか。国際社会に発信してきた、平和構築を国是としてきたメッセージをドブに捨てたようなものである。国連報告者ジョセフ・ケナタッチ氏は、「テロ等準備罪法」は「民主社会では認められない」とコメントしている。安倍首相は国連からの忠告も無視し、時代に逆行する政治を実現させたいようだ。

「森友学園」問題は、教育勅語を暗誦させる教育方針に賛同し、小学校の新設に便宜を図ったのが事実ではないか。安倍首相から100万円の寄付があったという昭恵夫人の言動も棚晒しのままである。「加計学園」の獣医学部の新設は、「岩盤規制をドリルで風穴を開けた」と豪語するが、腹心の友への便宜供与ではないか。安倍首相の意向を萩生田官房副長官が文科省に伝えたという情報も出てきた。演説では、事実の解明のために真摯な説明責任を果たすと言っていたが、臨時国会の開催を拒み、解明はほど遠い。

権力の執行は、国民の声を聴き、弱者の生存を保障するために用いるものである。沖縄県民の声を無視して、辺野古新基地建設を強行している。沖縄平和運動センターの山城博治議長を長期間拘束して、反対運動を抑え込む強権を行使した。福島原発事故の収束を計ろうと、帰還を強要し、帰還しない人々への支援を打ち切ると言う。放射能被害者を生み出すことになるのではないか。貧困女子、下流老人、そして、6人に一人の子どもが満足に食事ができず、望む進学も閉ざされている。低賃金で働かされる非正規雇用の若者たちを希望の持てない状況に追い込む政治は犯罪的と言えよう。

安倍政権は、駄々っ子が思い通りに事を進め、都合が悪いことには耳を貸さない「ジコチュウ」そのものではないか。大臣たちの失言、妄言は止むことがない。稲田防衛相は、政治に利用してはならない自衛隊を用いて、自民党に投票を呼び掛ける、とんでもない発言をした。自民党の若手議員たちの常軌を逸した言動は続いている。力に奢ったジコチュウの連鎖に見える。安倍政権が積み上げるリスクは計り知れない。国民が負わなければならない負担は増えるばかりである。自民党の中から、辞任、辞職を求める良識ある反乱が起こらないのであろうか。何より、主権は国民にあることを確認したい。民主主義は、国民が政治を動かすシステムである。このシステムを放棄したら、強権ファシズムへと暴走する。国民が主権を行使する民主主義は弱い立場に置かれた人々を守り、生きていてよかったという社会形成を目指す。安倍政権のジコチュウを叱り飛ばす時である。